

旧西尾家住宅と旧中西家住宅の観覧を再開しました！



旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）と旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）は、平成30年（2018年）6月18日の大阪北部地震と同年9月4日の台風21号により、屋根瓦の落下、灯籠の転倒などの被害を受け、臨時休館していました。

この度、これらの被害の復旧及び応急修繕が完了したことから、旧中西家住宅は平成31年（2019年）4月1日より、旧西尾家住宅は令和元年（2019年）11月3日より観覧を再開しました。

旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館） 電話番号（06）6381-0001

庭園と主屋の計量部屋の公開

○観覧日時 毎週水・日曜日のそれぞれ午前10時、午後1時、午後3時 各回定員10人

※希望日の前月1日から電話・FAXで事前にお申込みください。

旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館） 電話番号（06）6386-1182

建物及び庭園の公開

○観覧日時 毎週水・土・日曜日のそれぞれ午前10時、午後1時、午後3時 各回定員30人

庭園のみの公開

○観覧日時 毎週火・木・金曜日のそれぞれ午前10時～正午、午後1時～4時30分 各回定員30人

※それぞれ希望日の前月1日から電話・FAXで事前にお申込みください。

※4月と11月は特別公開のため日程が変更になります。詳しくはお問合せください。

文化財保護の取り組み

埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在約150か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）があります。遺跡の中で開発等が行われると、遺跡が壊され失われる可能性があります。そこで、遺跡に影響が与えられると判断される場合は発掘調査・試掘調査、遺跡に影響を与えないと予測される場合は掘削工事工程の中で工事立会を行っています。

平成30年度は、32件の発掘調査、64件の工事立会を実施しました。

文化財の保存・管理・公開・活用

－文化財保存事業補助金の交付－

平成30年度は府指定有形文化財1件、市指定有形文化財1件、市指定有形民俗文化財2件、市指定無形民俗文化財1件、市地域有形民俗文化財1件、市地域無形民俗文化財4件の保存事業に補助金を交付しました。

－文化財の管理・公開－

国史跡七尾瓦窯跡、国史跡吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田34号須恵器窯跡および雉子礮碑について、管理を行うとともに一般公開しています（常時見学可）。

－文化財の普及・啓発－

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の遺跡等の文化財所在地への文化財説明板の設置等を行っています。平成30年度は、蔵人稲荷神社本殿（市指定有形文化財）の説明板を設置した他、糸田橋石柱の説明板を修繕しました。

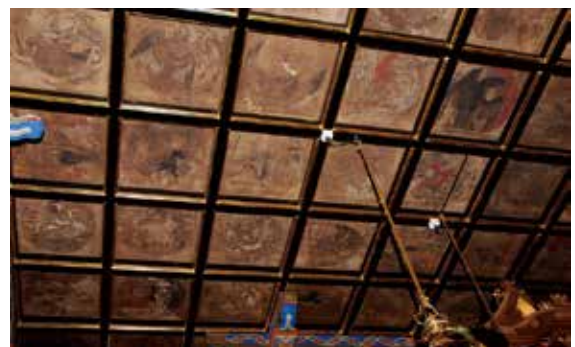
現在販売中の吹田市の歴史関係資料（一部抜粋）

書 名	定 価
すいた歴史散歩（増補版）	200円
わかりやすい吹田の歴史 本文編	400円
吹田の歴史年表 （わかりやすい吹田の歴史別冊）	100円
郷土吹田の歴史	500円

吹田市立博物館、吹田市役所市民総務室（高層棟7階）で販売しています。（令和元年12月現在）

トピックスー文化財の防火対策についてー

平成31年（2019年）4月15日にフランス・パリのノートルダム大聖堂で大規模な火災が発生しました。また、令和元年（2019年）10月31日には世界遺産・首里城跡でも大規模な火災があり、正殿などが全焼しました。関係者の皆様には謹んでお見舞い申し上げます。文化財は一度火災等により焼失すると、歴史的価値が失われ、元通りに回復させることが困難なことから、普段から火災を起こさないための防火対策を心掛けておくことが非常に大切です。文化財保護課では、文化財保護事業の一環として、市内文化財の防災工事にに対し補助金を交付しています。平成30年度には山田伊射奈岐神社本社本殿（府指定）、令和元年度には紫雲寺本堂内陣鳥獸図（府指定）と江坂素盞鳴尊神社本殿（市指定）の防火対策工事にに対し、府及び市の補助金を交付しました。かけがえのない財産である文化財を火災から守るためにも、文化財所有者の方をはじめ、市民の皆様も防火対策の徹底について、今一度心がけていただきますようお願い申し上げます。



▲紫雲寺本堂内陣鳥獸図（府指定有形文化財）



▲江坂素盞鳴尊神社本殿（市指定有形文化財）

追加指定の文化財①

国指定重要文化財(建造物) 旧西尾家住宅内塀・外塀



▲旧西尾家住宅 鉄筋コンクリート塀(外塀)

名称(建築年代)

旧西尾家住宅

うちべい そとべい
内塀、外塀

(明治後期～昭和初期)

所在地

吹田市内本町2丁目15番11号

旧西尾家住宅の広大な敷地の外側を囲む外塀と敷地内を区画する内塀は明治後期から昭和初期にかけて建てられました。

これらの塀は宅地の整備や拡張に併せて建てられもので、すでに指定されている主屋等と一体の価値を有するものと評価され、令和元年(2019年)9月30日付で国の重要文化財に追加指定されました。

新規登録の文化財①

国登録有形文化財(建造物) 山本家住宅

非公開



▲山本家住宅 北土蔵及び表門

名称(建築年代)

山本家住宅

しゅおく
主屋(江戸後期)、

ひがしどぞう
東土蔵(大正12年)

きたどぞう おもてもん
北土蔵及び表門(大正後期)

所在地

吹田市佐井寺2丁目

北土蔵及び表門は、土蔵造の北土蔵と入母屋造の門とで構成され、荘厳な表構えを形成しています。歴史ある集落景観の核となる貴重な旧家であることから、登録基準(一)「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると評価され、令和元年(2019年)12月5日付で国の登録有形文化財に登録されました。

新規登録の文化財②

国登録有形文化財(建造物) 永井家住宅

非公開



▲永井家住宅 主屋

名称(建築年代)

永井家住宅

おもや
主屋(大正12年頃)

どぞう
土蔵()

所在地

吹田市長野東

主屋は聴竹居(重要文化財)を設計したことで知られる建築家藤井厚二によって設計されました。著名な建築家の希少な住宅作品であることから、登録基準(二)「造形の規範となっているもの」、また、土蔵は登録基準(一)「国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると評価されました。令和元年11月15日付で国の文化審議会の答申がなされました。

吹田操車場遺跡の発掘調査

(岸部中1丁目)

すいたそうしゃじょういせき
吹田操車場遺跡は、旧国鉄吹田操車場跡地一帯に広がる、旧石器時代から近世にかけての遺跡です。平成31年(2019年)3月に発掘調査を行いました。その結果、地表下約60cm地点の地山面上で、溝、土坑、谷状の落ち込み地形などの遺構を検出しました。



▲A区全景(北から)



▲B区全景(北から)



▲須恵器平瓶

溝は10条を検出し、幅40～90cm、深さ20cm前後です。溝の方位は、北から西へ約20°前後傾くものと、北から西へ約60°強傾くものに分れました。埋土中からは、奈良時代から平安時代にかけての遺物が出土しました。

土坑は4基検出しました。直径90～160cm、深さ40cm前後のもので、遺物は出土せず用途や時期は不明ですが、いずれも谷状地形よりも東側に集中していました。

谷状地形は南北方向に延び、最大幅4.6m、深さ1.9mです。遺物は出土しませんでした。埋土にはかつて水が流れていた痕跡が見られ、堆積と浸食を繰り返しながら徐々に埋まっていったようです。

出土遺物は土師器碗・皿・甕・釜、黒色土器碗、須恵器平瓶・捏鉢、灰釉陶器碗、瓦器碗、青磁碗・白磁碗などの中国製陶磁器、古代瓦などが出土しました。概ね奈良時代から鎌倉時代(8～13世紀頃)にかけての遺物です。

このうち須恵器平瓶とは、飲み物を入れたり注いだりするドリンクピッチャーのような容器です。高さ12.8cm、胴径20.0cmで、上部に注ぎ口と把手が付いていた痕跡が残ります。奈良時代(8世紀頃)のものです。

今回の発掘調査では、溝、土坑、谷状地形などの遺構と、奈良時代から鎌倉時代にかけての遺物を確認することができました。吹田操車場遺跡では、飛鳥時代の粘土採掘土坑や奈良・平安時代を中心とする建物遺構が確認されており、今回の発掘調査で出土した資料も、それらの遺跡に関連するものと考えられます。

(堀口健二)

吹田操車場遺跡の発掘調査

(岸部新町)

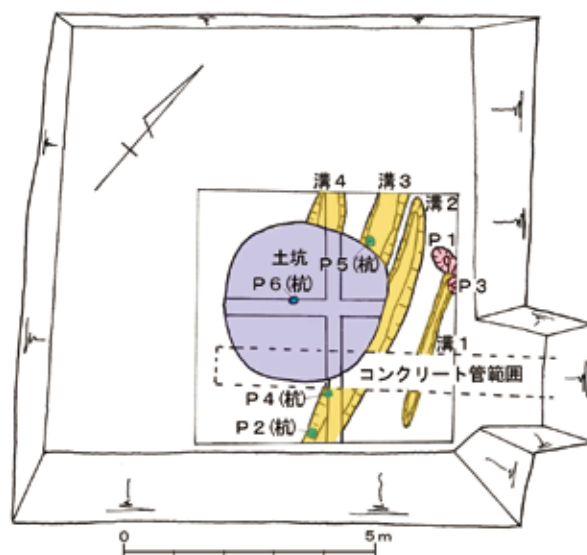
これまでの吹田操車場遺跡の調査で、古墳時代の大型土坑群、飛鳥時代の掘立柱建物跡、ピット、大型土坑群、奈良時代の大型土坑、溝、ピット、掘立柱建物跡、平安時代の掘立柱建物跡、井戸、溝、鎌倉時代の掘立柱建物跡、井戸等の遺構が検出され、弥生時代～中世の集落跡と考えられています。

今回の調査は、(仮称) 健都ライブラリー整備事業に伴い平成29年度(2017年度)に実施された発掘調査の追加調査で、令和元年(2019年)5月に行われたものです。調査面積約25㎡で、現地表面から約1.6m下(標高約6.1m)の1次遺構面では土坑、ピット、溝が認められました。土坑は直径約3.2mの不整円形で、深さ約1.5mを測ります。中からは湧水が認められ、出土した陶器(近世)等から近世の井戸と考えられます。溝は南北方向に4条並行して認められ、幅20～60cm、深さ約10cmを測ります。中世の耕作痕と思われます。ピットは4か所(P2・4～6)確認され、直径約20cmを測り、中には木杭が遺存していました。現地表面下約1.8m(標高約5.9m)の2次遺構面ではピットが2か所(P1・3)で確認され、中世以前のものと思われます。遺物は遺構等から須恵器(古墳時代)、土師器(中世、近世)、瓦器(中世)、瓦質土器(中世)、陶器(近世)、磁器(近世)の破片が出土しました。

以上のとおり、今回の調査では近世の土坑・ピット、中世の耕作痕の溝、中世以前のピットが確認されました。これらは平成29年度(2017年度)に当地で行われた発掘調査で確認された平安時代の掘立柱建物跡、ピット等、中世の溝、落込み等の遺構と一連のものと思われますが、近世の井戸と考えられる土坑と杭が残るピットは当調査地では初めて見つかったものであり、

近世以降の当地の開発の変遷を知る上で新たな知見が加わったものと思われます。

(西本安秀)



▲遺構全体図



▲第1次遺構面(北西から)



▲近世土坑(南から)

北泉遺跡の発掘調査

(泉町5丁目)

北泉遺跡は泉町一帯に広がる、弥生時代から中世にかけての遺跡です。今回の調査地は千里丘陵先端部の中腹地点にあたり、平成30年(2018年)10月～11月にかけて「コ」字形の調査区を設けて発掘調査を行ったところ、弥生時代から中世にかけての遺物を中心とする遺物包含層を確認することができました。

地表下2m地点では、弥生時代中期から古墳時代前期(4世紀頃)にかけての土器が出土する落ち込み(土器溜まり)を10か所確認しました。特にそのうちの2か所の土器溜まりから、弥生土器壺・甕、古墳時代の土師器壺・高杯・甕などの遺物が出土しました。

その他の土層中からは須恵器平瓶、土師器皿、瓦器椀、瓦質土器火鉢、備前焼、中国製の青磁椀など、平安時代から室町時代にかけての遺物が出土しました。

また調査区底面や壁面断面で、近世後期(19世紀頃)のものと考えられる、地震の際の液状化現象に伴う砂脈(液状化した砂の通り道)4条と、地滑りの跡1か所などの地震の痕跡を検出しました。この時期に近畿地方を襲った大地震には、天保元年(1830年)の京都大地震や安政元年(1854年)の南海大地震があり、このうちのいずれかの地震の可能性がります。

今回の発掘調査では、住居跡のような明確な遺構は確認できませんでしたが、弥生時代から古墳時代にかけての土器溜まりを確認することができました。土器が出土したことは、当地の周辺に弥生時代から古墳時代の集落が存在していた可能性を示すものです。北泉遺跡の既往調査では、当地西側隣地から弥生時代から古墳時代を中心とする土器溜まりが確認されており、

今回の発掘調査で出土した資料も、これに関連するものと考えられます。

(堀口健二)



▲土器溜まりの落ち込み



▲調査区断面に現れた地震痕跡(砂脈)



▲古墳時代の土師器(上段は高杯、下段は壺)

蔵人遺跡の発掘調査

(豊津町)

蔵人遺跡^{くろうどいせき}は、江坂町2丁目・3丁目・豊津町に広がる、弥生時代から中世にかけての遺跡です。令和元年(2019年)5月から7月にかけて発掘調査を行いました。その結果、地表の下約1.3mから2.25mまでの間に5面の遺構面を検出しました。

最も上層の第1面からは、約2.8mの間隔で並走する幅約1.6～1.8m、最深で約0.34m、南北方向の溝が2本見つかりました。調査範囲が限られているため明確ではありませんが、今回の調査地点は、この地域一帯に広がる豊嶋郡榎坂郷^{じょうり}の条里で四条一里34坪と35坪の境界の推定ライン上に位置することから、条里を区画する畦畔^{けいはん}か道のような機能をもっていた可能性が考えられます。溝跡からは土師器・瓦器・陶器などが出土しました。

第2次面では溝跡、井戸跡、水田の区画と思われる落ち込み等の遺構が見つかり、土師器・須恵器・瓦器・瓦質羽釜^{がしつ はがま}等が出土しました。第3次面でも溝跡、曲物を枠に使用した井戸跡、ピット、池跡、水田の区画と思われる落ち込み等が見つかり、土師器・須恵器・瓦器・瓦質羽釜・緑釉陶器^{りよくゆうとうき}・土錘^{どすい}・漆器^{しつき}等が出土しました。

第4次面では、ピット、護岸用^{ごがんよう}と考えられる杭列^{くいれつ}を伴う池跡、溝跡、南北4間×東西2間以上の掘立柱建物^{ほったてばしらたてもの}と考えられる柱穴群^{ちゅうけつぐん}を検出し、土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・木製品等が出土しました。

第5次面では、南北は3間で東西は2間かそれ以上の規模を有する総柱^{そうばしら}の掘立柱建物と考えられる柱穴群を検出し、柱穴の底面には厚手の礎板^{そばん}が重ねて敷かれていました。この面からは土師器・須恵器等の他、墨書土器^{ぼくしよ}・硯^{すずり}に転用したとみられる須恵器杯蓋^{つきふた}が出土しました。

これらの出土遺物から、今回見つかった遺構は、概ね平安時代、鎌倉時代、そして室町時代にかけてのものと考えられます。どの時代も調査区全体に砂の層が厚く堆積しており、度重なる洪水によって、それまでの生活面が埋没し、そのたびに姿を変えながらも生活の営みを続けていた様子が確認できました。(田中充徳)



▲南北方向に延びる溝跡



▲曲物の井戸枠の検出状況



▲総柱建物の柱穴

令和元年度特別企画「むかしのくらしと学校」

「むかしのくらしと学校」展を12月10日から開催しています。小学3年生社会科単元「くらしのうつりかわり」の学習に準拠した特別企画展です。また子供向けの関連イベントも実施しますので、ご家族でお楽しみいただければと思います。

(藤原博史)

関連イベント（◆親子・子供体験講座◆）

◆親子歴史講座◆

「昔は草木で染めたんだあー草木染め体験」

日時／令和2年1月25日(土)

午後2時～4時

講師／博物館ボランティア

定員／20名

対象／小学生・中学生・保護者

申込／1月7日(火) 必着

◆子供体験講座◆

「手づくり おひなさま」

日時／令和2年2月9日(日)

午後1時30分～3時30分

講師／エコおもちゃ作り市民塾

内容／和紙や木材等を使って作ります。

定員／20名

対象／小学生以上

申込／1月28日(火) 必着

◆親子体験講座◆

「大昔のアクセサリー ～勾玉作り～」

日時／令和2年2月15日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師／博物館学芸員・博物館ボランティア

内容／ろう石を削ったり、磨いたりして、大昔のアクセサリーまが玉を作ります。

定員／午前、午後の部とも各40名

対象／小学生・中学生・保護者

申込／2月4日(火) 必着

◆子供体験講座◆

「ミニチュア 銅鏡づくり」

日時／令和2年2月22日(土)

午前の部 10時～11時30分

午後の部 1時30分～3時

講師／博物館学芸員・博物館ボランティア

内容／五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1

ミニチュアを作ります。

定員／午前、午後の部とも各10名

対象／小学3年生～中学生

(小学生の場合は保護者同伴)

申込／2月11日(火・祝) 必着

◆親子体験講座◆

「昔のあかりと火おこし体験」

日時／令和2年2月29日(土)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師／博物館ボランティア

内容／ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やまいぎり等の火おこしを体験します。

定員／午前、午後の部とも各15組

対象／小学生・中学生・保護者

申込／2月18日(火) 必着

◆親子体験講座◆

「3世代をつなぐすてきな歌」

日時／令和2年3月7日(土)

午後2時～3時30分

出演／おんぶひろば コーラスビータ

内容／昔から伝わる歌と現代の子供達と大人の歌

定員／120名(先着順)

対象／幼児～大人

◆子供体験講座◆

「手作り おもちゃ教室」

日時／令和2年3月8日(日)

午前の部 10時～12時

午後の部 1時30分～3時30分

講師／心ふれあいS A 吹田おもちゃ部会

内容／昔の遊び道具と牛乳パックや身の回りにある材料を使っておもちゃ作りをします。

定員／午前、午後の部とも各30名

対象／5歳～中学生

申込／2月25日(火) 必着

■■ 申込方法 ■■

吹田市役所ホームページの電子申込システムからの申込か、はがき、またはFAXに、講座名、希望の時間帯、参加者全員（付き添い含む）の氏名、郵便番号、住所、学年、電話番号を書いて博物館まで。

申込多数の場合は、抽選となります。

●会場／吹田市立博物館 2階 講座室

(草木染め・火おこしは屋外)